



Title	工学部電子情報工学科「情報活用基礎C」授業を振り返って
Author(s)	安藤, 英由樹
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2008, 9, p. 37-37
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70265
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

工学部電子情報工学科「情報活用基礎 C」授業を振り返って

安藤 英由樹 (情報科学研究科 バイオ情報学専攻)

1) 授業概要

工学部電子情報工学科では、新入生最初のコンピュータ演習として、情報活用基礎 B の演習科目を開講している。この演習の目的は、計算機利用の手順、日常的に利用するメールの利用方法、自己紹介のための HTML、これからの授業で必要となるレポート作成のための TeX、及びプログラミング基礎となる C 言語について、概要の解説と実習、毎回のレポート提出を行った (表 1 参照)。

2) 授業内容

著者は 4 月着任であり、この授業が阪大での初めての講義となった。一方、受講者も新入生ということで、実際に Linux にふれることが初めての学生がほとんどであり、ログインに戸惑うところからのスタートであった。受講者は 177 名、3 つの教室を利用し、教卓 PC 画面と音声によるいわば遠隔授業形態となった。TA が各教室に 2 名程度いたため、特に支障がなかったが、学生からは顔が見えないという点において不満があったようである。

レポートによる課題を毎週メールによって提出させた。昨今の学生は課題を与えないと自習を怠る傾向にあるということから実行したが、9 割以上の学生が真面目に提出してくれたので、採点にはやや労を要した。

初回授業においてはおよそその学生が Windows に慣れているせいか戸惑ってはいたもののおおよそ使い方は理解できたようであった。ここでは、特にインターネット社会におけるモラル、いわゆる「ネットケット」についての話を強調した。次に UNIX についての概要、コンソールを利用したコマンド等について練習させたが、次週には多くの学生が忘れており、結局、GUI によるファイル操作を行っているものが多かった。

特に、コマンド解説等の何かと使い方についての解説が多くなりがちであるが、こういった場合には必ず自ら、検索サイトを立ち上げさせ、いわゆる「グ

ぐる」(注 Google に限定するわけではないが)ということ、習慣的に行うよう何度も強調した。

TeX 等による文書生成は今後必要となると考えて講義に盛り込んだ、レポート内容として、入学 3 ヶ月の学生に対して 4 年先の卒研先や就職先について、自分の希望を記述させたところ、各研究室の WEB 等を見ることで、多くの学生が進路に興味を持つように仕向けることができた。

初歩的ではあるが HTML についても作成させた。経験者も数名おり、仕上がりに差があったものの、ほとんどの学生が個性的な自分のページ作りに没頭していたようである。一方で、この HP に学外からアクセスできないことに不満を漏らす学生もいた。

C 言語については、おおよそ通り一遍行った。特に先任の先生方にポインタについて十分に学習させるようにとの指示があったので、C 言語については十分に時間を取った。しかしこの頃になるとレポートがやや他人のものに若干手を加えたのではないかと等しいようなものが多く見受けられ、ちゃんと習熟しているかどうかやや不安が残った。インタラクティブな確認法があれば尚よかったかもしれない。

出席は授業支援システムを活用することにより、苦労はなかった。一点、出席情報の欄にもログイン ID だけではなく学籍番号も表示していただけると助かる。

表 1. 講義・演習の流れ

講義・演習内容	所要コマ
ログイン・WWW・メール	1 回
UNIX の使い方	1 回
LaTeX	2 回
ホームページ作成	3 回
C プログラミング	6 回

3) おわりに

普段コンピュータ接している学生とそうでない学生にはやや修得に開きがあったように感じた。その要素は「慣れ」のようなものであると思うがこういったものが修得できるよう努力したい。